

闘志を新たに、頑張れ！

『三宅選手ご参拝』



東京の東京オリンピック・パラリンピック開催まで、残すところ数ヶ月となりました。令和へと改元し、初の新年を迎え、オリンピック開催を迎える二〇二〇年元旦、女子重量挙げ四九キロ級で東京五輪出場を狙う三宅宏実選手が必勝祈願に参拝されました。

輝かしい初日の光りの中、元旦祭へ参列されました。そして武運長久の御神徳をお示しになる日本武尊を祀る男具那社に対し深く頭を垂れ、あらためて東京五輪に向かつて前進することを決意された様子でした。

三宅選手はリオデジャネイロ五輪のあと怪我で苦しまれ、一年間の治療休養の後復帰されています。「御嶽神社に参拝すると、私は大丈夫だと思える、縁起がいい神社なんです」とお話しいただきました。祭典後のご予定は、都内へ戻りトレーニングを再開、すぐに合宿に向かわれるとの事でした。

三宅宏実選手を初めとした、日夜厳しいトレーニングに励み日本代表を目指す各選手の皆様、選手を支えるご家族や関係者の皆様、オリンピック開催に向けて準備を進める組織委員会や関係各所の皆様に感謝し、盛大な大会が、つつがなく開催されます事をお祈りいたします。



『太占の卦にみる今年の気候』



令和二年

Table with divination results for the year, including dates and corresponding hexagrams.

一月三日早朝七時、毎年太占祭が執行されます。斎主祭員は二日の夕方に出社し、神火を熾す、鹿骨の型を取る等準備に暇がありません。三日早朝、潔斎を済ませた宮司が二十五種の作物名の書かれた紙縋を引き、祭は始まります。祭の始まる一時間程前にならないと作物が骨のどの位置にくるか解らないのです。今年の卦は、お茶三分、麻四分、ゴボウ九分、薩摩七分、大根、馬鈴薯、大麦、大豆、ネギ等々二十五種中十九種が十分とできました。さてさて占いの読みはここからが重要になってきます。これら作物の吉凶の卦から今年一年の気候を読むのです。それでは気になる今年の気候は？

当社禰宜馬場猛仲氏によると、『茶が三分ということで、五月初旬は遅霜に注意が必要。その後暑い日が多くなるも雨もまた多いでしょう。梅雨入りは早く、明けるのは遅い、雷雨やゲリラ豪雨には今年も要注意。夏は日照不足になるかも。そして台風も多そう。さらに秋の長雨にも注意が必要』とのこと。しかしながら『農産物の作柄は平年並みになるでしょう。』との読みです。太占の太(ふと)は占を称える言葉、占(まに)は神意のママニという意味です。つまり奉納される骨の大きさや厚さ、炎の強さ、等々この占いに携わる神職を始め、全ての行為が結果が神様のおぼしめしなのです。

第四十七回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 三百十句

選者 岡田 日郎

特選

むささびの声遙かより月夜の宿 藤沢市 乗田真紀子
邯鄲に導かれつつ御師の宿 相模原市 関 迪子
耐鶴来鳴き夕日の御師の里 佐倉市 鈴木久美子
御師の宿茅葺き屋根に春の雪 所沢市 遠藤康雄
むささびの飛びて参道月明り 青梅市 津布久信雄

秀逸

苔生うる祠一繩注連飾る 所沢市 八重樫安子
長き磴耐へて嬉しき初詣 羽村市 杉原功一郎
山開き宮の奥から鈴の音 国立市 阿部元氣
爽涼や坂を登れば大櫓 大和市 木林優子
神杉の天辺かすめ夏燕 さいたま市 渋谷和江
かんだんの鳴き声の満ち御師の庭 所沢市 遠藤タカ子
川に沿ふ小道をカヌー担ぎ来る 町田市 井田誠治
山雀 神代櫓 罫とす 小郡市 樋口裕実
初詣一段ごとや母の杖 豊島区 保田貴子
霧の中みただけの山をただ歩く 横浜市 有田浩之

佳作

春の山寄り添ひ老杉神守る 新座市 長谷川 栄
御岳山中に拝み初日の出 昭島市 座間康臣
風花の展望台や一人占め 昭島市 宮腰秀子
愛犬と足並み揃へ山登り 毛呂山町 近藤多美子
談笑の学徒ら登る若葉かな 日高市 野口明良
朝起きて耳をすませば蟬の声 江東区 太田 墨
祈待つストゥーヴの辺のなごみかな 日の出町 渡邊敏雄
山吹や神代櫓 裾装ふ 羽村市 松原るみ子
石楠花の赤極まれり山の雨 さいたま市 土肥寛子
参道の煙るが如き緑かな 羽村市 本橋耕一郎

選者吟 講宿の引き水の鳴り十三夜

奉納俳句選評

むささびの声遙かより月の宿 乗田真紀子
「むささび」は一年中いるが、秋から冬にかけてよく鳴くので、俳句では冬の季節とする。夜行性といっている。

邯鄲に導かれつつ御師の宿 関 迪子
御岳では「邯鄲の声を聞く会」が開催されていたが、現在ではどうなっているだろうか。美声で名高い。

耐鶴来鳴き夕日の御師の里 鈴木久美子
「耐鶴」(じょうびたき)は冬の渡り鳥。中国などで繁殖し、冬鳥としてわが国の各地に渡来する。街中の公園などでも鳴き声を聞くこともある。

第四十八回 奉納俳句募集要項

- 1. 作品は未発表に限る。
2. 受付は指定用紙にて投函箱へとする(郵送等直接の受付は致しません)
3. 締切り 新元号二年一月十五日
4. 発表 新元号二年三月中旬
5. 四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
6. 大勢の方の投函をお待ちしております。

おちにお 昭七年十一月三日生まれ。
に日 福田蓼汀(りょうてい)の「山火(やまび)」に投句し、
かだ 昭和二十六年から編集を担当、蓼汀没後の平成二年
お 主宰となる。山と自然を称える山岳俳句を多く詠み、
岡 五年「連嶺」で俳人協会賞、東京出身。学習院大卒。
田 本名は晃。著作に「山の俳句歳時記」など。